飛鳥時代の技術を体感～川原寺裏山遺跡と出土遺物の復元～

関西大学提供
作成日　2016年3月23日
更新日

研究者氏名	所属機関	関連キーワード（複数可）
よねだ　ふみたか 米田 文孝	関西大学文学部	考古学、古代史学、美術史学、仏教史学、飛鳥学
主な研究テーマ 日本・南アジア考古学　博物館学		**主な採択課題** • 挑戦的萌芽研究 平成27～29年度（配分総額：3,380千円）「古代寺院荘厳具の復元的研究 ～川原寺裏山遺跡出土金属製品を中心として～」 • 基盤研究（B）平成21～24年度（配分総額：15,080千円）「飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究―出土品から見た川原寺の特質―」

① 科研費による研究成果

○川原寺裏山遺跡の発掘調査と出土遺物の整理・公開

飛鳥時代の寺院内部を荘厳した現存遺物数は限られるが、昭和49年度に実施された川原寺裏山遺跡の発掘調査で埋納坑内から出土した一括遺物は、その一端を具体的に明らかにできる点で重要である。今回、不明であった埋納坑の詳細な規模・形態を把握する目的で、平成22年度に第二次発掘調査を実施した。あわせて、第一次発掘調査で出土した一括資料の悉皆的な整理作業を実施し、資料の内容を確認した。その結果、塼仏（せんぶつ）・塑像などの出土数量や製作技法を明らかにした。その過程で金属製品の数量の多さとその種類に多様性があることが判明し、古代寺院の堂内荘厳について新たな知見を加えることができた。

○出土遺物の復元的研究

X線CTスキャナ・3Dプリンタを活用し、塼仏・塑像の内部構造の実体化を行うことで、製作技法を実証的に復元した。また、塼仏の図像紋様や法量、胎土、彩色などを検討し、塼仏の製作過程や生産体制、使用法などを復元した。特に、金属製品の調査では密教の修法に用いる三叉の金剛杵である三鈷杵（さんこしょ）が新たに確認できたことから、川原寺で執行された密教儀礼の内容や、古代仏教の実態を明らかにできる糸口が見つかり、その成果は朝日新聞紙上で報道された。

○シンポジウムの開催

研究成果について、国際シンポジウムを開催し、資料集を刊行した。また、東京で公開講座（まほろば講座など）を開催した。

三鈷杵

② 当初予想していなかった意外な展開

○塼仏（せんぶつ）製作の体験学習

明日香小学校での出前講座、ひらめき☆ときめきサイエンス（日本学術振興会）、考古学ウィークエンドセミナー・キッズミュージアム（関西大学）などの義務教育支援活動を通じ、3Dプリンタを使用して遺物から復元した型を用いた塼仏製作の体験学習を実施した。このような実践的な歴史学習には教科書を通じた学習とは異なる効果があり、児童・生徒からは「歴史を身近に感じることができた」「作り方に興味がわいた」というような反響があった。

塼仏の製作風景

○明日香村の遺跡のCGアニメーション化

明日香村の史跡をCGアニメーション化した副読本付DVD教材を、近畿圏の小学校約3,000校に配布した。3集（石舞台古墳・飛鳥寺・水落遺跡）を刊行し、第4集（飛鳥宮）を制作中である。

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

考古学を中心に多分野が協同し、飛鳥に造営された古代寺院の堂内荘厳の実証的復元などを実践する。この成果を出発点に、密教をはじめ初期仏教の内容解明に資料を提供するとともに、獲得した成果を迅速に公開する。あわせて、体験型学習用教材として教育活動に提供する。